

# 原子力委員会のこれまでの活動と経緯(概要)

資料4-1

段階	主なトピック	原子力委員会の果たしてきた役割			
<p><b>第1期</b></p> <p>原子力委員会を中心とした計画的・民主的な開発・利用の推進(1950s～1970s後期)</p> <p>稼働原発(1970年3月) <b>2基,50万kW</b></p>	<p>1954.4 日本学術会議、「原子力の研究と利用に関し公開、民主、自主の原則を要求する声明」</p> <p>1955.9 原子力調査国会議員団共同声明</p> <p>1955.11 日米原子力研究協定調印</p> <p>1955.12 <b>原子力基本法、原子力委員会設置法等公布</b></p> <p>1956.1 <b>総理府原子力局、原子力委員会発足</b></p> <p>1956.5 <b>総理府に科学技術庁設置</b>(原子力局が移行)</p> <p>1956.6 日本原子力研究所発足</p> <p>1956.8 原子燃料公社発足</p> <p>1957.6 原子炉等規制法公布</p> <p>1957.7 国際原子力機関(IAEA)発足</p> <p>1964.7 電気事業法公布</p> <p>1968.2 新日米原子力協定調印</p>	<p><b>平和利用の担保</b></p> <p>○原子力基本法(1955年～)、原子炉等規制法(1957年～)、二国間協定等に基づき、原子力の研究開発利用が平和目的に限られていることを確認</p>	<p><b>設置許可・安全指針策定</b></p> <p>○原子炉等規制法に基づき、設置許可等にあたり、意見聴取を実施(1957年～)</p> <p>○核燃料物質の所有方式決定</p> <p>○原子炉立地審査指針決定(1964年)</p>	<p><b>長期計画・方針の策定</b></p> <p>○原子力開発利用長期基本計画策定(1956年～5年毎に策定)</p> <p>○「原子力損害賠償制度の確立について」決定(1960年)</p> <p>○動力炉・核燃料開発事業団の業務に関する基本方針策定(1968年、1971年)</p>	<p><b>総合調整(予算・資源の配分)</b></p> <p>○予算の配分・調整 ※各省の原子力関係予算をとりまとめ、調整後、大蔵省へ要求</p> <p>○原子力開発利用基本計画策定(1956年～毎年策定) ※日本原子力研究所(炉の設置計画や研究内容等)、原子燃料公社(探鉱計画等)の業務を規定</p>
		↓			
<p><b>第2期</b></p> <p>原子力委員会から安全規制を分離・核燃料サイクル推進(1970s後期～1990s末)</p> <p>稼働原発(1990年9月) <b>39基,3,148万kW</b></p>	<p>1973.3 美浜原発燃料棒破損事故</p> <p>1974.9 <b>原子力船「むつ」放射線漏れ</b></p> <p>1975.2 原子力行政懇談会(座長:有沢広巳)設置(1976.7まで)</p> <p>1976.1 科学技術庁に原子力安全局設置</p> <p>1976.6 日本、核拡散防止条約(NPT)批准</p> <p>1977.12 日本・IAEA保障措置協定発効</p> <p>1978.10 <b>原子力安全委員会発足</b></p> <p>1979.3 米、TMI原発事故発生</p> <p>1986.8 チェルノブイリ原発事故発生</p> <p>1987.11 新日米原子力協定調印</p>	<p><b>平和利用の担保</b></p> <p>○原子力基本法(1955年～)等に基づき、原子力の研究開発利用が平和目的に限られていることを確認</p> <p>○余剰プルトニウムを持たないとの原則を表明(1991年)</p>	<p><b>長期計画・方針の策定</b></p> <p>○原子力開発利用長期基本計画策定(5年毎に策定、2000年まで)</p> <p>○核物質防護基本方針を決定(1981年)</p> <p>○原子力船研究開発指針策定(1984年) ※原子力船「むつ」廃船の自民党部会の決定に対し、実験継続を要望(1992年原子炉停止)</p> <p>○「当面の核燃料サイクルの具体的な施策について」決定(1997年)</p>	<p><b>国際貢献</b></p> <p>○国際核燃料サイクル評価(INFCE)に適切に対処するため、「INFCEに臨む我が国の基本的考え方」決定(1977年)</p> <p>○アジア地域原子力協力国際会議(ICNCA)の開催(1990年～毎年開催)</p>	
		↓			
<p><b>第3期</b></p> <p>相次ぐ事故を経て安全規制強化・原子力利用のグローバル化(1990s末～現在)</p> <p>稼働原発(2010年3月) <b>54基,4,885万kW</b></p>	<p>1995.12 <b>「もんじゅ」ナトリウム漏えい事故</b></p> <p>1996.9 日本、包括的核実験禁止条約(CTBT)に署名</p> <p>1997.3 <b>動燃アスファルト固化施設事故</b></p> <p>1999.9 <b>JCO臨界事故</b></p> <p>1999.12 日本・IAEA保障措置協定追加議定書発効</p> <p>2001.9 米、同時多発テロ発生</p> <p>2001.1 <b>中央省庁再編(原子力委員会を内閣府へ、保安院発足)</b></p> <p>2002.6 エネルギー政策基本法成立</p> <p>2003.1 北朝鮮、NPT即時脱退を宣言</p> <p>2006.2 国際原子力エネルギーパートナーシップ(GNEP)発表</p> <p>2007.7 米印原子力協力妥結</p> <p>2011.3 東日本大震災、福島第1原発事故</p> <p>2012.9 <b>原子力規制委員会及び原子力規制庁発足</b></p>	<p><b>平和利用の担保</b></p> <p>○原子力基本法(1955年～)等に基づき、原子力の研究開発利用が平和目的に限られていることを確認</p> <p>○「我が国におけるプルトニウム利用の基本的な考え方について」決定(2003年)</p>	<p><b>震災復興への貢献</b></p> <p>○核燃料サイクル、事故コスト試算(2011年11月)</p> <p>○「福島第一原発における中長期措置に関する検討結果」とりまとめ(2011年12月)</p> <p>○核燃料サイクル政策の選択肢提示(2012年6月)</p>	<p><b>長期計画・方針の策定</b></p> <p>○原子力政策大綱策定(2005年) ※閣議決定によって「政府は基本方針として尊重する」とした ※2012年、新たな原子力政策大綱の策定に向けた審議を中止</p>	<p><b>国際貢献</b></p> <p>○国際原子力エネルギーパートナーシップ(GNEP)閣僚級会合に委員長が出席(2007年～毎年実施) ※核不拡散と安全性を満たす核燃料サイクルの実現等に向けた協力</p> <p>○アジア原子力協力フォーラム(FNCA)の開催(2000年～毎年)</p>
		<p><b>透明性の確保</b></p> <p>○原子力委員会の一般公開、資料及び議事録のHP公開(1997年)</p> <p>○立地地域等で原子力政策円卓会議を開催(1996～99年)</p> <p>○パブリックコメントの実施(1996年以後、41回実施)</p>			